

## 日本多施設共同コーホート研究(J-MICC Study) 平成20年度第1回外部評価委員会 議事録

日時: 平成21年2月17日(火)午後2時~5時

場所: ホテルアソシア名古屋ターミナル 19階 りんどう

出席者(敬称略): 齋藤英彦、富永祐民(委員長)、三木健二、村橋泰志、森際康友

事務局 浜島信之、若井建志、内藤真理子、森田えみ、川合紗世、岡田理恵子、  
富田耕太郎

計 12 名

欠席者(敬称略): 飯沼雅朗

### 1. 議事録の確認

平成19年度第1回委員会の議事録を確認した。

### 2. 委員の委嘱について

主任研究者より、弁護士会から本委員会の委員として村橋委員を推薦いただいたことから、愛知県医師会推薦の飯沼委員と合わせ、複数名の人選を他団体に依頼する本委員会の規則が満たされたことが報告された。

### 3. 各種委員会の開催状況、サイト研修・サイトビジットの実施状況、名古屋大学における倫理審査状況について

中央事務局(若井)より、各種委員会の開催状況、サイト研修・サイトビジットの実施状況が、主任研究者より名古屋大学における倫理審査状況が報告された。京都フィールド2について、京都府立医科大学の倫理審査委員会では調査開始前に承認されていたが、手違いで名古屋大学の倫理審査委員会への申請が行われていなかったため、取り急ぎ審査を申請したことが報告された。

これに対して委員から、1) 名古屋大学医学部倫理委員会での審査に期間がかかって問題があることはないか、2) 研究開始時期が地区により異なることから、追跡期間も地区によって変わるのか、との質問が出され、主任研究者より 1) 最近のほとんどの申請は迅速審査であり、1~2週間で承認が得られている、2) 追跡期間は全地区2024年度末で終了する予定である(地区により追跡期間の長さが異なる)、との回答があった。

### 4. 各実施地区の調査状況について

中央事務局(内藤)より、各実施地区の調査状況について、2008年11月末現在でJ-MICC研究本体で36,548名、J-MICC連合で10,421名が同意して研究に参加したことが報告された。あわせて地区での研究実施例として、大幸研究の実施状況が名古屋大学の担当者(森田)から報告された。また主任研究者より、可能であればベースライン調査を平成22年度以降にも延長し、J-MICC研究本体で6万名の研究協力者を募集したいとの補足説明があった。

これに対して委員から、各地区の当初の目標研究参加者数と進捗率も募集状況の一覧表に入れた方が良いとの意見が出された。また大幸研究に関して、医学的なフォローアップはあるのかとの質問が出され、大幸研究の研究責任者(浜島)から、検査は1回限りであることを研究協力者に説明しているとの回答があった。

### 5. 学会発表・論文発表状況について

中央事務局(川合)より、学会発表・論文発表状況について、J-MICC研究全体に関する論文が2編、J-MICC研究全体に関する紹介記事が1編、J-MICC研究全体に関する学会発表が4題、コーホート研究実施グループ独自の学会発表が13題発表されていることが報告された。主任研究者より、横断研究での検討のうち、原著論文での発表が困難なテーマについては、学会誌のsupplementによる公表も考慮していることが補足された。

これに対して委員から、後のために研究計画についての論文をきちんと発表しておくことが必要であることが指摘された。

## 6. 横断研究について

主任研究者より研究協力者のうち、理科学研究所(理研)において、約4,000名の研究協力者の100種類程度の遺伝子多型を決定し、検診データや生活習慣などとの関連を検討する横断研究が進行中であることが報告された。コーホート研究実施グループ間ですでにテーマの調整を終えており、33テーマが設定されているとのことであった。

これに対して委員から、1) このようにテーマの分担表を作成し、事前に分担を決めておくのは良い、2) 葉酸関連の遺伝子多型は興味深い、3) 理研の研究グループでの扱いはどうなっているか、との意見・質問があり、3) については主任研究者より、遺伝子多型を決定するグループのリーダー(久保充明先生)は共同研究者として扱い、研究費も配分しているとの回答がなされた。

## 7. 調査票および手順書の他研究での使用について

主任研究者より、1) J-MICC研究は分子疫学コーホート研究の1つのモデルとして、他の研究にも有用であること、2) 他研究でJ-MICC研究の調査票や調査手順などが使用されれば、将来の連携(プール解析など)の可能性も生まれること、3) 小規模研究などでJ-MICC研究との連携が難しい場合においても、J-MICC研究の調査票や調査手順などを使用しておけば、J-MICC研究の所見と比較することが可能なことなどから、運営委員会の承認の上で、調査票および手順書を他研究に提供していることが報告された。

具体的には、山形大学のグローバルCOEで実施予定のコーホート研究と、名古屋大学大学院医学系研究科予防医学/医学推計・判断学が中心となって実施している、北海道八雲町住民検診受診者を対象とした疫学研究に、調査票および手順書を提供しているとのことであった。

## 8. 委員の選任について

今年度で2期目の委員の任期(2年間)が終了するため、主任研究者より、現在の委員に3期目(平成21~22年度)も引き続き委員をお願いしたいとの打診があり了承された。ただし弁護士会あるいは医師会から推薦の委員については、団体の規則もあることから、主任研究者が個別に対応することとした。

## 9. その他

中央事務局(内藤)より、J-MICC通信の追加など、J-MICC研究のWebページの現状が報告された。これについて委員より、1) 広報DVDを動画としてWebページで流してはどうか、2) 現在のWebページは業務連絡が主体で、一般の方が情報を読み取るのは困難であるとの意見が出され、中央事務局で検討することとした。

## 10. 次回委員会について

主任研究者より、とくに臨時開催の必要がなければ、次回委員会は来年1月頃に実施予定であることが提案され了承された。